

令和元年度 徳島県立近代美術館協議会 会議録

1. 日時 令和元年10月23日(水) 13:30～15:30

2. 場所 徳島県立近代美術館講座室

3. 出席者

[委員] 10名中8名出席

岡山会長, 小川委員, 兼松委員, 岸上委員, 佐原委員, 武田委員, 田中委員,
東浦委員

[県立近代美術館]

館長, 副館長, 館員

[二十一世紀館]

主任主事

4. 会議次第

① 開 会

② 館長挨拶

③ 委員紹介・職員紹介

④ 議 事

(1) 平成30年度事業実施状況について

(2) 令和元年度予算及び事業概要について

(3) 運営計画について

(4) 中期計画・中期目標について

(5) その他

⑤ 閉 会

5. 会議概要

①平成30年度事業報告, 並びに令和元年度予算及び事業計画の説明
事務局より説明

②運営計画並びに中期計画・中期目標についての説明
事務局より説明

(5) その他 質疑応答 (一部要約部分あり)

委員

日頃の学芸員の方々の研究がご苦労されている中で, 工夫されながらやっていることはよくわかりましたということですが, 私の専門が美術教育とかデザインとかなので, その立場から。
ユニバーサルっていう視点でやられてますけど, これがいい視点で, そう

いったものが 90 年代から割合増えていっているんですが、今だとインクルーシブっていう発想になってきているので、健常者と障がいをお持ちの方と切り分けて、両方してもいいですよという発想よりかは、全員一緒にしてすべての人がいる中で、障がいをお持ちの方達に対してのこういうようなプロジェクトという発想があるといいかなというのが一点です。要するにこれだけの展覧会ではなくて、普段やられている展覧会の中でも、どういう風な形に持って行けるか、みたいなことも、あとは用語の使い方でインクルーシブっていう言い方でやった方が良くもありません。

子どもの教育とかもやられていますが、最近やっていますごく面白かったのが、ミニフューチャーシティというプロジェクトをやっています、子ども達にただ鑑賞させるといったものではなく、キッザニアの進化した版みたいなんですけど、そういう発想で子どもが来て鑑賞するっているよりかは、子どもが例えばリストを作って、ここで作って、自分たちで確認を経て、多少探してみたいな発想で教育をする。美術を通して社会がどう動いているか理解するというようなプログラムあっても面白いかなとは思いました。

あとは展覧会の内容なんですけど、郷土作家の調査や保存を 50 % ぐらいの割合でやられていますが、それ以外に特化する部分みたいなものがあるのもいいかなという、そのへんがちょっと後手で、この美術館に来ると、どういったものが見えるのかという部分って、版画っていうものは確かに一個、線がありますけど、ずっとそれをやるというものではなくても、何か特化したものがあるのも面白いかなとは思いました。昨今の教育の分野で僕の立場から言えばシティ教育みたいな、数学とはみたいなことがありますし、委員の方と話していたのは、山下菊二がめっちゃくちゃ流行っていて、人人会とか、中村正義とか、針生一郎さんとか、あの辺を特集してもいいですし、何かちょっと、ここ数年で広域ともうちょっと連携しながら、どう落とし込むかが面白いかなと思ったところです。

事務局

ご意見有り難うございました。本日お配りしております冊子『あの手この手』の後ろをめくっていただきますと、考え方としては気持ち的にはインクルーシブを目指してやってきたところがあります。ただ、初めて県のこの事業のための予算をいただいて、こういうことを始めますといった時にですね、社会的包摂とかそのへんのことを急に話し始めても、なかなか理解がされにくいかなということで、バリアフリーよりは一歩進めてユニバーサルというのが福祉の場面ではなくて、美術館の場面ですらできるとしたらどんなことかなというような問題提起としての言葉遣いとして始めている訳ですけども、今も企画の段階から色んな人に参加していただいて、一緒に運営していくというのが一番ホットなところですので、いっそう頑張っていきたいと思えます。

(肢体不自由な方がおいでして回っていくのに、活動しにくいといった意見はないのかという問いに) 直接言っただけならと思うんですが、狭いエ

	<p>レベーターなんとかなりませんかという当事者の方からの意見がありまして、老朽化の一途をたどっていますので、すぐに設置することが難しいところがありまして、ソフト面で頑張っているところが実態としてあります。ハード面でもたくさん課題が残っているのではないかと考えています。</p> <p>ただ私たちは福祉の部署ではなくてあくまで美術館として何が出来るかをやっていて歯がゆいところはあるんですけども、文化施設として快適に利用してもらおうという言い方で改善なんかにアイデアを提案していけたらと考えているところです。</p>
委員	<p>昨年度、近畿高等学校総合文化祭や県高文祭を美術館でやらせてもらいました。大変いい環境で高校生の気持ちもよく汲んでいただいて、職員からは講話や講演をしていただいたんですが、とても楽しく、県外から来てもらった人にも充実感のある講演をしていただいたことに感謝しています。</p> <p>ユニバーサル事業という面でも興味深いなと思っています。もうすぐ遠足に行くんですけど、遠足でどんなことができるのかな、実際にここに来て色々経験することを楽しみにしています。</p> <p>先日は模写カードというものを体験させてもらったんですけど、とても面白いカードで、子どもに受けがよくて、学校と美術館が連携していくという点で、いろいろと楽しい提案をしてくださっているなという実感がありますので、このまま教育普及の点で、いろいろ提案していただいたものを使っていきたいなと、連携もできたらいいなという感想です。</p> <p>先ほど山下菊二の話をしていたんですけど、徳島の作家を大切にしていくということも大切だと思います。山下菊二だけではないと思うんですけど、ここはすごく徳島の作家を大事にしているという感覚がありますので、そうしていくとブレイクした時に嬉しいな、という感想を持ちました。先日、個展で東京に行ったら、「山下菊二のいる徳島だね」と声を掛けられて、「そうですね」と、こちらがちょっとびっくりしたんですけど、とてもブレイクしているということで、近代美術館の方でも大事にしていくと嬉しいと思います。</p> <p>近代美術館という近代というくくりのある中で、面白い作品の収集の仕方というか、とても特色のある集め方や見せ方で、頑張っているなと思います。</p>
委員	<p>入館者数は年によって特別展の内容や新聞社と共催したかどうかとか、そういうことによって人数が変わると伺って、本当に面白い特別展や常設展をなさっていると伺って、少しでも多くの県民の方にその情報が届くといいなと思ったんですが、新聞での広報が効果的だというお話でしたが、新聞以外にも若い世代に向けての広報の工夫、あるいは何か手応えを得ているような広報のあり方など、もしあれば教えていただきたいと思っています。</p>

事務局	<p>若い世代への広報には課題がありまして、見ていただいて分かる通り学芸員がだいぶん歳でして、なかなか新しいメディアによる広報が難しいところ です。ツイッターなどいろいろ研究はしております。なかなか難しい所です。 口コミが広がるといいのですが、今回のニューヨーク・アートシーン展につ きましては、来ていただいた方から「よかったよ」ということで、それでお 客さんが来ていただいたり、お店等から「ポスターが格好いいので貼らせて 欲しい」というリクエストがあったり、そういうこともさせていただいてい るので、そういうところもうまく使って地道にイケたらと思っています。</p>
事務局	<p>補足をさせていただきますと、先ほどツイッターという言葉がありました が、ツイッターは、文化の森の公式アカウントで美術館や博物館などの情報 を発信しています。昨年度からは公共機関では余りしていなかったハッシュ タグ、「あわ文化」「文化の森」といった統一ハッシュタグを使った作戦な ども行っていまして、使い出してから反応もよかったので、これからいつ爆 発できるのかなと思いつながりながら頑張っている状況です。</p>
委員	<p>昨年度は就学前の事業を一緒にさせていただきましてありがとうございます でした。小さいお子さんに美術館の楽しさを伝える機会というのはあまりなく て、そういう機会を美術館の方から作っていくことは大切であり、その活動 を継続して行ってイケたらと思っています。</p> <p>また、普及事業に関しましては、ユニバーサルであったりチャレンジであ ったり、様々なことを開催して、非常に力を入れていきますし、徳島の美術 館の大きな柱として育てているなあと思います。また、普及事業の方も一つ の大きな柱として、今後とも続けていただけたらと思います。</p> <p>収集の方も130万円ということで、もう少し予算があればと思いますが、 やはり収集は美術館の柱の一つですので、継続的な収集を効果的に行うこ とが大事だと思いますので、少ない予算をもっと増やせばいいのですが、 継続して行っていただきたい。</p> <p>寄贈の方も学芸員の皆様の努力と言いますか、そういうつながりで、県内 の方はじめ、いろんな方を調査に加えて合わせて行っていただきたい。</p> <p>先ほど事務局員からお話がありましたが、今年度、もう1人の方が、学芸 員の方が採用予定ということで、ここ十年くらい入れ替わりと言いますか、 継続的に採用していただきますようお願いいたします。近代美術館は徳島の美術 館の核でもありますし、美術というものの核でもありますので、継続して運 営できるように、お手数をおかけしますが採用いただきたいと思います。</p>
委員	<p>初めて参加させていただきました。美術館でいろんなことをされているの が分かりました。自分の子どもも、出前授業や保育所から美術館に来させて</p>

いただいて、自分自身が美術館への敷居が下がったというか、今までは自分では美術館はなかなか行かないなと思っていたところが、保育所での活動を通して、子どもが見たものを見てみようと思ったり、子どもとの会話から再度美術館に展示作品を見に行ったりする保護者もいるようです。

保育所や小学校と連携して、子どもを通して親に伝わるような形で広がっていくのではないかと、実際にそうやって広がっていったんだと感じています。美術館に来た子どもの変化というか、子どもの発言から、大人が見えなかった部分も気づいたり感じたりすることができて、継続して取り組んでいってほしいことだなと思っています。

ロコミの効果は大きいと思うので、私の職場にも「ニューヨーク・アートシーン」のポスターを飾らせてもらっているんですが、保育所でも、美術館の活動のちらしや広告を配ったりして、広めていくお手伝いもできるのではないかと考えています。

委員

初めて参加させていただきました。個人的に、昨年度の日下八光展で、身近な方のお父様でいらっしゃいまして、そういう得がたいご縁ということで、実際美術館でひとりの作家にスポットを当てて、掘り下げるという取り組みに参加させていただいて肌で感じる事ができたし、徳島にこういった方がいらっしゃるといふことで、身近な方のお父様であると初めて知ったといふことは衝撃的な体験でありました。

それから、日本語指導者の団体の代表もしておりまして、文化庁から委託事業の一環で、日本語指導者が子どもたちとアートを掘り下げる、まずは自分たちが体感してみようといふことで、職員の方にも協力をいただきまして出前講座をしていただいたり、それがきっかけで外国の子どもたちが、課外授業で美術館鑑賞で職員の方にお世話になっているといふことで、我々に美術館の距離が縮まる機会があったんですが、今回の会議に参加して、少人数で精力的に活動をしていることが分かりました。その中でも、子どもたちに関して美術に親しんでもらおうという取り組みが盛んに行われているといふことで、一方で、たとえば、企業があつてそこで働いている人がいて家庭があつてといふわけで、企業との絡みがどういふ風に進んでいるのかなといふのが一つと、高齢化社会が進んでいく中で、介護施設にいらっしゃる方々にも美術に親しんでいただく機会が創出できているのかな、未開拓の部分がまだあるのではないかとこのころもありました。これから可能性があるのではないかと思いました。

それから、今期が5年の最後の年といふことで、次の5年間に向かつて、世界的にSDGsという考え方が浸透してきています。そこでも美術館として何ができるかといふ可能性があるのではないかと。

ユニバーサルの事業が素晴らしいと思っています。10年目の取り組みといふことで、一つのことには10年間も取り組んでいると、いろんな進展があ

って、次に何に取り組めばいいか、ということが、だんだんと高みに向かっていってるのではないかと思います。視覚障がい・聴覚障がいの方のために、ということになるのですが、私の知り合いの方で「盲聾者との触手話で会話をしている、触手話を覚えているんです」ということを聞きました。複合の障がいをお持ちの方にとっても美術を楽しめる、何かもう一つ進んだことができる可能性があるのではないかと思います。子どもたちへの出前講義も、西部や南部などの遠方になると厳しいかというところはあるのですが、年に何回かは調整をしながら、西部や南部などのこれまでなかなか行けないところにも美術を楽しんでもらえるような、そういうことにも可能性があるのではないのでしょうか。

企業の方では働き方改革の関連法案が成立しており、企業規模によって違いはありますが、有給休暇は5日以上とらないといけないところもあるので、福利厚生制度と連携して、働き方改革プラスワン休暇というので、有給休暇を使うと連休が長くなる、そんな時に、ぜひ美術館にということ、例えば1枚招待券を使い、あと少し、いくらか足して家族で行こうか」といった可能性もあると思うので、企業との連携もこれまで以上に強化していけたらいいのかなと、思います。

美術館としては何が一番課題と置いていらっしゃるかということをもう少し教えていただけたら、その課題について意見を交わせるのではないかなと思います。PDCAを合わせていくということで、課題を改善したら、必ず次の課題も出てくるので、PDCAサイクルを構築しながら次の計画を、5カ年に向かって、お互いにそれぞれの専門分野の方がいらっしゃると思うので、できることを考えていけるのではないかと思いますので、お互いの緊急度、重要度を分析していただけるとありがたいな、と思いました。

事務局	委員の方からご提案の話をいただきまして、最後には美術館として何が一番課題かということでしたので、基本的にはお手元にある中期計画の中の抱負というのがそれぞれ我々が取り組んでいかなければならない課題と理解いただき、今年度は最後の年ですので、来年度の中期計画を発表する際にですね、ご意見ももとに致しまして、新しい次の5年間をまとめますのでよろしく願いいたします。
委員	広報関係でツイッターされているのを知らなくて。公式サイトとかに出てるんですけど、よく見るとチラシとかに、サイト向けにお知らせというので、QRコードをつけたり、もうちょっとこうアピールをしてもいいのかなと考えて、ちょっとツイッターのほうに目がいってなかったんで、思いました。 あとは膨大な資料を作っていますので、会議の準備が大変だったと思うんですけども、たとえば今年度、中期目標が終わると言うことで、次の年度に向けて、この協議会でそういうのを話すのって、言い方は悪いですけどやりっぱなしになりかねないという感じなので、次の課題というのもちょっと

出していただいた方がいいなど。結果があるにつれ結局そのデータの読み取り方とか、入館者数にしても何にしても、結局状況を判断するのに、どう読み取っていいのかというのはすぐにこちらにも分からない。

いずれにせよ、次年度に向けてというのをもう少し出していただければ、それを協議会で議論する場にしてもいいのかなと、この協議会自体の議題が昨年度とあと今年度の予算と事業概要と中期目標としていて、ただ、今年がプレ30周年で来年が開館30年でそれに向けて、どんなことを考えていらっしゃるのか、展示計画を色々お聞きできたら面白いと思うし、先生方に具体的な事業について意見をしていただけると感じなら面白いのかななんていうところもあるかなと感じました

あと、予算関係ですごいなと思ったのが、増額。うちなんかどんどん目減りしてるものですから、それに対して新規事業という形で。調査研究とか普及とか資料保存にしても、少しずつマイナスが出ていますけど、こういった大きな金額が、ただちょっとこの事業で、900万がどういう形で事業になってるかというところがいまいち理解していないんですけど、先生方は理解していますか。そのあたりお聞きしたいなと思います。

事務局

900万につきましては、今年は培広庵の美人画展についての経費になっております。実行委員会ですので展覧会事業費としてそれに徳島新聞社の出資もあって事業規模はもう少し大きいのですが、プレ30周年ということで県の負担として900万ということです。

事務局

ちょっと補足させていただきますと、このアートによる文化プログラム促進事業というのは、先ほど申しましたように当館が今プレ30周年、来年度30周年を迎えるということで、文化の森全体が30周年を迎えるということで、県の3カ年計画で、文化の森各館が3カ年計画でこの30周年を盛り上げていこうという風な取り組みをしております。そういった流れの中で、美術館につきましては来年度はドイツとの美術の交流ということで、今年度は日本画を出して、来年度はドイツといった形の複数年の事業プログラムを促進していく中の元年度の予算ということで900万。来年度につきましては当然これに基づいてまた予算が出るのがついていくという流れで進めていくところでございます。

委員

素晴らしいなと思います。そういう意味ではそれだけの事業を行うための人員の確保ですね。ベテランの学芸員2名が背景に退かれて1人新たな学芸員が、継続的に今後も採っていくということを言っていただいたんですけど、そのへんがもしマイナスになるという結果になるのでしたらちょっとまずいので、ぜひ新しい学芸員をさらに募集、それと、一気にこの年代的な差を考えた採用の仕方を将来的にお考えいただきたいという。これはうちの課

題でもあります。
